



環境保護・保全の在り方について

光風会 恵利 いつ 議員

**議員** 環境保護保全への意識が高まり住民活動が着実に増えているように見受けられる。緑地の保護保全への意識啓発というこれまでの取り組みから一歩進んで、環境をどう守り、保全のためにどのように手を加えるかなどを学ぶ段階にあると考える。学ぶことによりこれからの環境政策、住民活動がさらに充実したもの、質の高いものになると思うが、村の考えを伺います。



村所有の森(押延溜付近)等にてボランティア作業

**建設水道部長** 「東海村緑の基本計画」の下、村と地域および各団体との協働活動を進めるとともに保全配慮地区を設定し用地の取得に取り組んでいます。地域の方々の緑化活動に対する理解、関心を高めること、さらには地域での活動を継続してい

くことが最重要ととらえている。そのため保護の在り方、保全の手法等々について学ぶことは大変有効な手段です。効果的な取り組みを推進するためにも、講習会等の機会を設けたいと考えています。

**議員** 新たな公園造りにおいて既存の樹木を活かしてほしい。これまでの縦割り行政ではなく、区画整理課と公園整備担当部署である都市政策課が連携を図りながら整備していく必要があると考えるが、いかがか。

**建設水道部長** 今後の公園整備においては既存の樹木も残していきたい。関係課と十分調整を図り進めたいと考えている。

**議員** 住民活動は年々活発になり、すそ野が広がり、活動単位も多様化している。有志が集めたごみの処理など活動支援の枠を広げることではないでしょうか。

**経済環境部長** 環境政策課とごみゼロ推進課が連携し、自治会活動以外のボランティア活動等でも一定基準でごみを収集する。より活動しやすきように対応していきます。



元役場職員が自費出版した「大好きな東海村」について

みらいの会 舛井 文夫 議員

**議員** 元役場職員が、「大好きな東海村で」という本が自費出版され、内容については、登場する人物はイニシャルで出ており、村政に係る重要な部分について記載され、村長に係る部分についてもM村長として相対登場されており、読んでいれば村長の率直な感想を伺う。

**村長** 中国の古い言葉に「公事は私事を議せず」という言葉がある。著者は自叙伝を書くと言っており、私は読んでおりませんが、著者の思い、感情、立場から書かれたものであり、私事ということなので、論評は差し控えたい。

**議員** 61ページには、「私はM村長から2度ほど私を助役にしたと言われたことがあった。一度目は冗談だと思って聞き流した。ところが、その後義理の兄から村長が助役になりたいと言っていたよと言われ、私は動揺した」と記載されており、さらに、福祉部長に就任して間もないある日、話の流れの中で、M村長から「おれのこと嫌いか」と言われ、とつさに「好きとは言えませ

ん」と答えてしまったという記述もあります。383ページには、社会福祉協議会常務理事の3年目のとき、M村長は「1年と言わず、5年でも10年でも務めてほしい」という言葉をいただいたという記述もあります。この辺のところは本人の記憶だけなのか、村長は言った記憶がないのか、このほかにも聞きたいが、時間が限られているので、3点のみ伺います。

**村長** 現職の村長という現時点においては、公事という立場にあり論評はしたくないが、今の3点につきましては、全く私は記憶にございません。

**議員** この本により、「あつものに懲りてなますを吹く」ことにより、女性職員の任用についてために生じないよう、男女共同参画社会の実現のために、適材適所、それから能力主義、実力主義を望む。

**村長** 私は採用についても、男女の差別をなくすということが続けてまいりました。